こども家庭センターだより

明日（あした）もしあわせ通信（第９０号）令和５年 12 月号

Here, There and Everywhere

約半世紀前、我が家に初めてテレビが来た。小学生だった私は「名犬ラッシー」などのホームドラマをよく見ていたが、モノクロ画面の向こうに眩しい西洋の日常生活があった。大きな車、広い家、芝生の庭、家の中の犬、など想像を超えていた。

心から驚いたのは「わんぱくフリッパー」というマイアミを舞台にしたアメリカのホームドラマのワンシーンで、主人公の小学生が学校の授業を無線機で受けていたのだ。

今なら、アメリカは国土が広いので“誰もが登校できるわけではない”と理解できるが、当時は本当に衝撃的だった。

「学校に行かなくてもいいの？」

“誰もが登校できるわけではない”。その状況が現代の日本社会にも訪れている。地理的にではなく心理的な距離が遠くなってしまったこどもたちが数多くいる。

学校でなくても学ぶ場はある。半世紀の間に科学は進歩した。自宅にいながら映像で授業の様子を知り、宿題を提出し、先生や友達とやりとりもできる。行政サービスも幅広く展開している。当市であれば、「はばたき教室」「おおぞら」なども利用できる。

大切なのは学ぶ心を失わないこと。そして、なによりも、“学校はいつでもあなたを待っている”と知っていてほしい。　（T.K）

教育支援教室 「はばたき」　「勝って、涙する･･･」

今年は、3月のWBC（World Baseball Classic）の優勝を始め、バスケットボール男子とバレーボール男子のパリオリンピック出場権獲得、更にアジア大会でソフトボール女子が優勝、水泳競技で池江璃花子選手が復活するなど、多くの競技・種目で私たちに感動を与えてくれました。私もテレビで観戦しました。そして、勝利した後に選手たちがうれし涙を流す場面を何度も目の当たりにしました。その涙は「優勝する、あるいは出場権を獲得する。」という目標を掲げて、体力や精神力の全てを注ぎ込んで猛練習に励み、全力を尽くして戦った末に勝ち取った喜びと達成感から自然に溢れ出たものだと思います。とても感動的な涙でした。

はばたき教室では、年度当初に一年間の目標、更に毎月の目標を考えて掲示しています。その目標は、生活や勉強、スポーツなどで自分自身が向き合って熱中できるものであってほしいと思います。

目標を実現するために毎日こつこつと努力を続けて力を蓄え、目標達成時の喜びに浸れるよう願っています。　（T．S）

はばたき教室　電話：０８９－９８９－５０２２　直通携帯：０８０－２９７４－４５８１

新しい職員の紹介

令和5年10月より事務職員として勤務することになりました、丸谷あかりと申します。

9月まで育児休暇をいただいており、久しぶりの職場復帰です。こども家庭センターのみなさんに助けていただきながら一生懸命頑張ります。

私には、3 歳と 1 歳の娘がいます。まだママ3年目ですが、この三年間いろいろな事がありました。子育て中は悩みが尽きず、長女が保育園の生活に慣れず登園渋りをしているのが今の悩みです。それに加えてイヤイヤ期も重なり、毎日時間に追われながらバタバタしております。

こども家庭センターでは伊予市内に居住する 0 歳から 18 歳までのこどもとその保護者を対象に、こどもにかかわる様々な問題について、保健・福祉・教育などの分野から総合的・専門的な相談・支援を行っています。カルガモ相談という、心理カウンセラーの先生に直接話を聞いてもらえる事業もあります。

私自身不安なことがあり、カウンセラーの先生に話を聞いてもらいました。共感しアドバイスをもらえて、何より話を聞いてもらえて心がすっきりしました。

こどもは一人ひとり違うので不安や悩みがあれば、かかえ込まず気軽にご相談ください。

（A.M）

≪おおぞら通信≫

「こころのけが」

友だちから勧められた『トラウマ　インフォームドケア』野坂祐子著の本の中には、たくさんの気付きがあった。「トラウマの多くは、本人が語らない（語れない）。心の中は、不安や恐怖でいっぱい。甘えたい気持ちもあるが、不信感が拭えず他者とうまく付き合えない。自分では変わりたい、よくなりたいと思う気持ちはあるものの、自信が持てず諦めてしまう。これこそがトラウマの影響である。」と。そして「トラウマによって生じている反応を、問題行動や困った人といった否定的な見方で捉えるのではなく、こころのけがの影響として理解することが大切なのだ。」の教えに深く共感した。

語らなくても安心して居られる場所にしたい。ケガの手当てをするように、安らぎと温かさを持って接していきたい。お互いを受け止め、信頼して付き合う人間関係をつくるためには、時間が必要だと思う。

自分が本当にしんどかった時、支えてくれた人のことを思い出す。

（K）

発達支援巡回相談

秋祭り

１０月下旬のある日、地域の秋祭りに合わせて園でもこどもたちがお神輿を担いで町内を練り歩くというので、それに合わせて見学させていただきました。「わっしょい、わっしょい」威勢のよい掛け声にお家の方や地域の方も大喜び。静かな山あいの町が活気づきました。

秋祭りに参加するこどもたちが減っています。のぼり旗ははためくものの元気の良い掛け声や笛の音は聞こえず寂しい限りです。我が地域では、数年前まで幼児と小学生の神輿がありました。幼児は神輿の列について歩くだけですが、この一日で貴重な体験をします。ついて歩くことによっていつもの自分の行動範囲よりも広い新しい世界を知ります。少しだけ担がせてもらうとその重さにびっくりし小学生のお兄ちゃんお姉ちゃんたちをリスペクトします。地域の大人の人たちが親しげに声をかけてくれて仲良くなり、時には注意をしてくれたりもします。一日歩いて帰宅する頃には、顔つきがしっかりして成長を感じました。・・・我が子の思い出です。　（k.k）

伊予市こども家庭センター
伊予市尾崎３－１　☎989-6226
（伊予市総合保健福祉センター２階）